

第 115 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2006 年 4 月 20 日(木) 14 時 00 分~15 時 30 分

場 所: 実習館 2 階総合歯科医学研究所セミナールーム

演 者: 吉岡 亨 氏 (本学・客員教授)

タイトル: アジアの人材育成に関する国際戦略

このところアジアにおける日本の地盤沈下は著しい。例えば親日的と言われているタイや台湾を除くと、何かと我国のやり方にクレームが付くようになって来ている。シンガポールを例にとると、例えばバイオ立国を宣言していながら顔はアメリカを向いている。英国では何十年ぶりかでエリザベス女王のシンガポール訪問が行われたように、米・英両国はシンガポールを重視している。

一方台湾はどうか、国立台湾大学の医学・生物学系の研究者は殆んどすべてアメリカでポストを得ていた人々を呼び戻して雇用していることもあって特にアメリカそのものである。両者の違いはどこか?シンガポールはあえて日本を無視して様々な企画を樹て、周辺諸国に呼びかけている。台湾の方は早くから東大・京大などと共同研究契約を締結したものの、全く機能していない。

ところで研究者(人材)を育成するノウハウを世界で最も数多く所有しているのがアメリカである。アメリカの人材育成は

1. 徹底した人材の流動化
2. 学会におけるポスターセッションを利用したヘッドハンティング
3. ポスドクに対する長期的(2ヶ月)サマースクールを利用したヘッドハンティング

に集約される。

優秀なアジアの若手研究者は例外なくアメリカでの学会にポスターセッションに発表し、あるいはサマースクールに参加して自分をアピールしている。これに対して我国における人材育成は

1. 若手人材の固定化(理研を除く)
2. ポスターセッションの軽視・シンポジウムの重視
3. 短期的サマースクールによる技術習得
4. 大学院重点化
5. 外国の有名研究室への留学

によって支えられ、およそ国際的に通用する研究者を我国のレベルにふさわしい数に育成できていない。こうした実情を打開するためにアジアにおける新しいタイプの学会の設立とサマースクールの開設を提案したい。

さてこの問題を解くヒントは実はミトコンドリアのクラスター形成にある。その事も合わせて紹介したい。

(吉岡 亨)